

教科	家庭	科目	家庭基礎
使用教科書 (発行所)	家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来 (教育図書)		
履修条件 対象生徒	必修 普通科・理数科1年		
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。		
学習方法	<p><b>【授業】</b> 実践的・体験的な学習活動を通して、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付ける。生活の中から問題を見つけだし、課題を解決する力と実践的な態度を重視する。</p> <p><b>【家庭学習】</b> 授業で学んだ知識と技能を生かして、各自の家庭生活を見つめ、課題を設定し夏季休業中に「ホームプロジェクト」として、その解決に取り組む。</p> <p><b>【その他】</b> 高校家庭科には「家庭クラブ」という組織があり、家庭科を学習する生徒は家庭クラブ員となる。ここでは家庭科で学んだ知識と技能を生かして地域の生活を見つめ、研究的・奉仕的・社会的な活動を行う。</p>		
学習計画 と ねらい	<p>1 1学期 (1) 期末考査まで ア 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>イ 子供の生活と保育 ウ 高齢期の生活と福祉 エ 共生社会と福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力について学び、男女が協力して家庭を築くことの重要性について理解を深める。</li> <li>・子供と高齢者の生活と関わり方、家族や地域及び社会の役割の重要性について理解を深める。</li> <li>・家庭や地域及び社会の生活をよりよく創造していくための課題について考察する。</li> </ul>	
	<p>2 2学期 (1) 期末考査まで ア 食生活と健康</p> <p>イ 持続可能なライフスタイルと環境 ウ 生活における経済の計画 エ 消費行動と意思決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養、食事、食品と調理など食生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。(調理実習：3回程度)</li> <li>・持続可能な消費について理解し、自らの消費生活から参画できるようにする。</li> <li>・家計の構造や経済と社会のかかわり、家計管理について理解する。</li> <li>・適切な意思決定に基づく責任ある消費に関する課題について考察する。</li> </ul>	
	<p>3 3学期 (1) 学年末考査まで ア 衣生活と健康</p> <p>イ 住生活と住環境 ウ 生涯の生活設計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した被服の計画・管理などの基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。</li> <li>・安全や環境に配慮した住居の機能を理解する。</li> <li>・自分の目指すライフスタイルを実現するために問題を見いだして課題を設定できるようにする。</li> </ul>	
	<p>4 1年間を通して ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松山南高校家庭クラブの一員として各種行事に参加し、「創造」「愛情」「勤労」「奉仕」の精神を身に付ける。</li> </ul>	
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活の向上充実を図るために実践しようとしている。
評価方法	定期考査、授業態度、ホームプロジェクト、提出物、実技、家庭クラブ活動を3つの観点に基づき総合的に判断して評価する。		
その他			

